

平成 30 年度 事業報告書

一般社団法人日本分析機器工業会

平成30年度 事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

I. 会員の異動

会員の異動は別紙1のとおり。平成30年度における入会は正会員2社および賛助会員3社、退会は正会員4社および賛助会員5社で、会員総数は平成30年度末現在で171社となった。

平成29年度末現在 会員数 177社 (正会員107社、賛助会員70社)

平成30年度末現在 会員数 171社 (正会員105社、賛助会員66社)

II. 総会、理事会等

1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会平成30年度定時総会を次のとおり開催した。

(1) 日 時：平成30年5月17日(木) 15時00分～16時20分

(2) 場 所：霞山会館 牡丹の間

(3) 出席者：正会員108社のうち出席73社 (うち委任状提出・書面議決権行使 計51社)

(4) 承認された議案は次のとおり。

第1号議案 平成29年度事業報告および平成29年度収支決算書案の承認に関する件

(5) 報告案件

報告事項 平成30年度事業計画および収支予算の件

2. 理事会 (役員名簿は別紙2のとおり)

(1) 開催状況

第1回	平成30年4月18日(水)	11:30～12:30
第2回	平成30年5月17日(木)	14:00～14:50
第3回	平成30年7月13日(金)	12:00～14:00
第4回	平成30年9月5日(水)	8:15～9:00
第5回	平成30年10月19日(金)	12:00～14:00
第6回	平成30年11月22日(木)	16:00～17:00
第7回	平成31年1月9日(水)	15:30～16:30
第8回	平成31年3月15日(金)	15:30～17:30

(2) 主な決議事項

- ①平成 29 年度事業報告書（案）および収支決算書（案）承認の件（第 1 回）
- ②平成 30 年度定時総会議案書（案）承認の件（第 1 回）
- ③臨床検査精度管理調査測定装置コード表の共同事業に関する覚書締結の件（第 2 回）
- ④国立研究開発法人日本原子力研究開発機構主催「将来の科学者のための女子会・(科学・工学分野の国際メンタリングワークショップ)」への協力依頼の件（新規）（第 2 回）
- ⑤2018 年度 JASIS 開催に関する覚書締結の件（第 3 回）
- ⑥高圧ガス保安協会および JAIMA の共同規格制定の件（第 3 回）
- ⑦タイ TISTR との友好と協力に関する覚書締結の件（第 3 回）
- ⑧常設委員会委員長及び副委員長選任の件（第 3 回）（第 5 回）（第 6 回）（第 8 回）
- ⑨超臨界流体抽出装置/クロマトグラフィシステムに関するガイドライン制定の件（第 4 回）
- ⑩60 周年記念事業準備委員会設置の件（第 6 回）
- ⑪賛助会員入会の件（第 6 回）（第 7 回）
- ⑫協賛名義使用依頼（新規）の件（第 7 回）
- ⑬理事・監事選任スケジュール及び立候補調査実施の件（第 7 回）
- ⑭2019 年度工業会基本方針及び事業計画の重点について（第 7 回）
- ⑮2019 年度事業計画及び収支予算の件（第 8 回）
- ⑯正会員入会申込の件（第 1 回）（第 8 回）
- ⑰企画戦略会議委員選任の件（第 8 回）

3. 代表者懇談会

平成 31 年 1 月 9 日(水) 16 時 40 分～17 時 20 分、パレスホテル東京で正会員 43 社の出席を得て代表者懇談会を開催した。栗原会長挨拶の後、平成 30 年度事業中間報告を松浦専務理事、森安企画戦略会議議長から総括説明した。代表者懇談会に引き続き、約 240 名の参加者を得て新年懇親会を開催した。

Ⅲ. 平成 30 年度において行った事業の概要

1. 分析機器に関する調査および研究

- (1) 分析機器技術動向、環境関連技術動向調査（技術委員会、環境委員会）
- (2) 主要労働条件に関する調査・研究（労務委員会）
- (3) 知的財産権の管理推進に関する調査研究（知的財産委員会）
- (4) 分析機器の海外市場動向調査（国際委員会）
- (5) 分析機器工業に関する調査（統計委員会、事務局）
 - ・分析機器工業の経営実態調査（正会員を対象に悉皆調査）
 - ・分析機器の生産・輸出入動向調査（正会員・賛助会員対象、四半期）

2. 分析機器に関する情報収集および提供

- ①分析機器の手引きの発行および頒布（技術委員会）
- ②環境分析関連資料の情報収集および会員への提供（環境委員会）
- ③分析機器に係る欧州規制等関連情報（RoHS、REACH、WEEE、ErP等）の収集および会員への提供（環境委員会）
- ④人事・労務管理上の課題に関する情報交換会の実施（労務委員会）
- ⑤知的財産権の管理推進に関する会員企業相互の情報交換会の開催（知的財産委員会）
- ⑥輸出管理に関する情報収集および会員への提供（国際委員会）
- ⑦海外規制、国内薬機法の動向に関する情報収集および会員への発信（医療機器委員会）
- ⑧機関誌 JAIMA Season 発行（広報委員会）
- ⑨JAIMA Web サイトによる各種行政情報等の会員への情報発信（広報委員会、事務局）

3. 分析機器に関する規格、基準の策定および標準化の推進

- ①JIS K0123 流れ分析通則の改正作業実施（環境委員会）
- ②JIS K 0115 吸光光度分析通則の改正作業実施（環境委員会）
- ③公益社団法人日本医師会等実施の外部精度管理調査事業への支援（医療機器委員会）
- ④体外診断用医療機器の安全に関する IEC 規格の普及および JIS 化（医療機器委員会）

4. 分析機器に関する展示会の開催等

- ①JASIS 2018 を一般社団法人日本科学機器協会（JSIA）と共同開催（展示会委員会）
- ②新技術説明会、JASIS コンファレンスの開催（展示会委員会、技術委員会、環境委員会）
- ③JASIS WebExpo 2018 開催、JASIS WebExpo 2019 開催準備
- ④「JASIS 2019」（第8回）の開催準備（展示会委員会）
- ⑤JASIS 関西 2019 を一般社団法人日本科学機器協会（JSIA）と共同開催（展示会委員会）

5. 分析機器に関する講演会等の開催

- ①環境規制・標準化関連講演会の開催（環境委員会）
- ②労務・人事担当者に対するセミナー開催（労務委員会）
- ③知財管理関連セミナー開催（知的財産委員会）
- ④医療機器業公正競争規約インストラクター養成研修の実施（医療機器委員会）
- ⑤「ライフサイエンス・イノベーションセミナー」開催（医療機器委員会）

6. 分析機器に関する内外関係機関との交流および協力

(1) 政府関係機関への協力

- ①薬機法、安全保障貿易管理令、環境規制関係法令、計量法等分析機器に関連する法令の施行および関連する行政施策への協力並びに当該改正等の当業界への影響調査、関連情報の会員への情報提供（各委員会、事務局）
- ②工業会作成統計等の経済産業省への提供、Web による一般への提供（統計委員会、事務局）
- ③特許庁審査官との情報交換（知的財産委員会）

- ④経済産業省と協力し「安全保障貿易管理説明会」の開催（国際委員会）
- ⑤医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部を通じ医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動実施（医療機器委員会）

(2) 海外機関との交流および協力

- ①Pittcon との連携（企画戦略会議、国際委員会、展示会委員会、技術委員会）
- ②JASIS 併催の国際コンファレンスの企画運営（技術委員会、国際委員会）
- ③ALDA、Eurom II 等海外関連諸団体との交流活動の推進と連携強化（国際委員会）
- ④ALDA、Eurom II 等と受注統計データの交換、会員への提供（国際委員会）
- ⑤GDA（欧州 EDMA 等の海外 IVD 工業会アライアンス）への参加、交流（医療機器委員会）
- ⑥ETC（米国創薬ベンチャー企業のコンソーシアム）との連携（ライフサイエンス市場研究会）

(3) その他機関との交流

- ①一般社団法人医療機器産業連合会の活動に参画し、工業会の意見の行政への反映を図るほか、薬機法や欧州指令等に関し会員への情報提供、調査等の実施（医療機器委員会）
- ②体外診断用医療機器に関する一般社団法人日本臨床検査薬協会との連携による「IVD-MD の地位向上 WG」活動の実施（企画戦略会議、医療機器委員会）

7. その他本会の目的を達成するために必要な事業

- ①高校生向けサマーサイエンススクールの開催（技術委員会）
- ②大学院における素材機器分析評価講座開催（技術委員会）
- ③JASIS 関連情報、セミナー情報、社会性、公共性のある JAIMA 活動状況のタイムリーな発信（広報委員会）
- ④会員向け会報誌 JAIMA Season 発行（四半期毎）
- ⑤当工業会に関係する団体主催展示会等への後援・協賛名義等の使用承認(事務局)
- ⑥分析機器に関する国内および輸出向け団体 PL 保険制度の実施（事務局）
- ⑦顕彰等に関する事業
 - ・国、公共機関、団体等が行う表彰制度等の会員への紹介等
 - ・公益社団法人日本分析化学会先端分析技術 JAIMA 機器開発賞への協力
- ⑧工業会の社会的価値と諸活動を対外的に知らせる『工業会案内』（和英）、および『入会のご案内』の刊行（広報委員会、事務局）

IV. 委員会活動

1. 企画戦略会議

(1) 企画戦略会議開催

- ①平成 30 年度に企画戦略会議を 8 回開催し、理事会に上程する議題の審議を行った。また、企画戦略会議委員が分担して各常設委員会に参加し、各委員会活動のモニタリングを行い、複数の委員会間で調整が必要な事項を企画戦略会議で審議し、調整を行った。

- ②正副委員長会議を開催し、各委員会が概ね当初計画どおりに活動していることを確認するとともに、各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。
- ・平成 29 年度事業報告を実施（第 1 回理事会）
 - ・平成 30 年度事業中間報告を実施（第 6 回理事会）
 - ・平成 30 年度事業中間報告を実施（H31.1.9 開催の代表者懇談会）
 - ・第 1 回正副委員長会議開催 各委員会事業計画/予算説明・意見交換実施（H30.9.19 開催）
 - ・第 2 回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告・意見交換実施（H31.2.13 開催）
- ③常設委員会から提出された 2019 年度事業計画（案）および収支予算（案）について調整し、第 8 回理事会に上程した。
- ・2019 年度事業計画案を説明（第 8 回理事会）

(2) 展示会企画戦略小委員会開催

今年度 4 月に新たに展示会企画戦略小委員会を設置し、昨年度まで JASIS 中期戦略検討特別委員会で取り組んできた諸課題（JASIS コンフェレンスの在り方、グローバル化対応、他展示会との連携等現在の JASIS の課題）への継続的検討、新しい企画（JASIS WebExpo、JASIS 関西、特別企画（LSZ, OSF）の評価及び検討、目指すべき JASIS の将来像に関する JASIS 関連委員会の横断的議論を実施した。

<小委員会開催実績>

- ・第 1 回：JASIS 2018 特別企画検討状況について議論（2018.4.5 開催）
- ・第 2 回：「10 年後の JASIS について」各委員より発表（その 1）（2018.6.7 開催）
- ・第 3 回：「10 年後の JASIS について」各委員より発表（その 2）（2019.7.12 開催）
- ・第 4 回：JASIS 2018 振り返り、WebExpo への出展勧誘策について検討（2018.10.4 開催）
- ・第 5 回：今後の JASIS コンフェレンスへの対応について検討（2018.11.5 開催）
- ・第 6 回：WebExpo の現状報告と今後の進め方について検討（2018.12.7 開催）
- ・第 7 回：JASIS 2019 特別企画、JASIS 関西 2019 準備状況、10 年後の JASIS についてのディスカッション（その 1）（2019.1.10 開催）
- ・第 8 回：JASIS 関西 2019 結果報告、WebExpo 2019 進捗報告、10 年後の JASIS についてのディスカッション（その 2）（2019.3.6 開催）

(3) ライフサイエンス市場研究会開催

JAIMA が ICT を駆使して創薬や機能性食品開発等のライフサイエンス市場で分析機器産業の新たなポジションを築くための具体的な成功事例の創出や、バイオ医薬品開発の急速な新展開に対応し国内/海外製薬企業とのパイプラインを強化するためのプラットフォーム構築を目的に、会員企業の将来を担う若い世代の柔軟な発想、情報収集力等のポテンシャルを活用した研究会活動を実施した。

具体的には、以下の定例研究会開催を軸に、湘南 iPark との連携、HTS 研究会開催、米国 ETC（米国創薬ベンチャー企業のコンソーシアム）や Pittcon との協業をベースにオープンイノベーションを促す各種会合、セミナーを実施した。特に H30 年度は LS 研究会として JASIS および Pittcon に参画し、ETC との合同ランチョンセミナーを実施した。

なお、発足して 3 年間の活動に一旦区切りを付け、次の 3 年間での方向性を議論。結論の一つとしてさらなる活動の場を広げるべく、研究会参画メンバーの追加募集を決定した。

<具体的な活動内容>

①定例研究会計 1 2 回、WG 活動等実施

湘南 i-Park とのコラボセミナー、JASIS 2018 協力、Pittcon 2019 での ETC と JAIMA シンポジウム開催、フィンランド大使館からのセミナー協力依頼への対応、次の 3 年を見越した LS 市場研究会ミッション検討等を実施した。

<定例会開催実績>

第 22 回定例会（2018.4.19 開催）、第 23 回定例会（2018.6.5 開催）、第 24 回定例会（2018.6.29 開催）、第 25 回定例会（2018.7.18 開催）、第 26 回定例会（2018.8.22 開催）、第 27 回定例会（2018.9.20 開催）、第 28 回定例会（2018.10.17 開催）、第 29 回定例会（2018.11.13 開催）、第 30 回定例会（2018.12.19 開催）、第 31 回定例会（2019.1.16 開催）第 32 回定例会（2019.2.13 開催）第 33 回定例会（2019.3.14 開催）

②Pittcon および ETC メンバーとのアライアンスに関する打合せを実施

JASIS 2018 において Pittcon および ETC メンバーとのアライアンスに関する打合せを実施し、LS 研究会の活動紹介。Pittcon および ETC メンバーとのコネクション強化を行った。（2018.9.6 開催）

③日本・フィンランド ヘルスケア ICT シンポジウム参加。

ICT/ヘルスケア関連の人脈づくりのため、日本・フィンランド ヘルスケア ICT シンポジウムに LS 市場研究会から積極的な参加を行った。（2018.10.11 開催）

④ライフサイエンス イノベーション セミナーの実施

医療機器委員会と協働でライフサイエンス イノベーション セミナーを実施。セミナーは満席での実施となり、活発な質問・議論があった。（2019.3.1 開催）

⑤Pittcon 2019 にて JAIMA シンポジウムの実施

Pittcon 2019 に参加し、JAIMA シンポジウム、ETC-JAIMA ランチョンセミナーを実施。次回の Pittcon と JASIS のプログラム会議を実施。（2019.3.18～2019.3.21 開催）

(4) 国内外の諸団体との連携強化

国内は、一般社団法人日本臨床検査薬協会(JACRI)と IVD-MD 会議を 4 回および IVD-MD 地位向上のため WG を 4 回開催した。また、JAIMA、JACRI 共催でメディア向けセミナーを企画、実施した。

海外の諸団体との連携強化については、Pittcon Committee、メッセミュンヘン他との定期ミーティングを実施したほか、現地技術セミナー開催、PR ブース設置、JASIS アジアテクニカルフォーラム等への講師招へい、当該団体訪問などにより、インドネシア、マレーシア、タイ、インド等のアジア諸国の団体と交流を行い、関係強化を図った。

(5) JAIMA 設立 60 周年記念事業準備委員会開催

2020 年 8 月に設立 60 周年を迎える当工業会の 60 周年記念事業の実施準備のため、当準備委員会を設置し、記念事業の準備活動を実施した。なお、2019 年総会後は、新たに設置する「60 周年記念事業実行委員会」に業務を引き継ぐ予定。

- ①第 1 回設立 60 周年記念事業準備委員会を開催し、小委員会（記念誌準備小委員会、記念行事準備小委員会）の設置、運営方針等について検討した。(2019.1.30 開催)
- ②記念誌準備小委員会開催に向け、主査、副主査および事務局にて、記念誌スケルトン作成のための準備会合を 2 回開催し、2019 年 4 月第 1 回記念誌準備小委員会開催を決定した。

2. 技術委員会

分析装置及び分析手法に関する情報の収集・展開・普及、将来展望に関する調査などを通じて、工業会全体及び各会員企業の技術力向上、事業拡大に貢献することを目的として、(1) JASIS コンファレンスの企画運営、(2)グローバル交流、(3)分析機器の手引き改訂、(4)次世代人材育成支援および(5)他団体との連携活動を実施した。

(1) JASIS 2018 併催の JASIS カンファレンス等の企画運営

JASIS 2018 にて開催した JASIS カンファレンス、新技術説明会およびオープンソリューションフォーラム (OSF) の企画運営を実施した。特に、OSF は、昨年度に続きほとんど満席となり、このフォーラムのコンセプトが来場者のニーズを捉えていることが確認できた。

<開催結果>

- ・ JASIS カンファレンス：37 団体、52 セッション、聴講者数 4,219 名(昨年度 4,507 名)
- ・ 新技術説明会：発表テーマ 352 件、聴講者数：16,017 名(昨年 16,001 名)
- ・ OSF：聴講者数：2,275 名(昨年約 1,619 名)

(2) グローバル交流

海外の友好団体等との交流事業（セミナー等）を国際委員会と連携して実施した。

- ①JASIS カンファレンスにおいて国際シンポジウム (RSC-TC) を開催。トラベル гранトにて 12 名の海外研究者を招へいし、日本の研究者との交流を図った。
- ②JASIS カンファレンスにおいて日韓セミナーを開催した。

③タイ科学技術研究所 (TISTR) との合同セミナーをバンコクにて開催した。

<実施内容>

開催日：2018.11.13

テーマ：機能性食品および化粧品に含まれる素材分析

JAIMA 関係参加者 (25 名)：国立医薬品食品衛生研究所 NIHS 杉本氏、会員メーカー

TISTR 関係参加者 (25 名)：Wirach Chantra 副所長他

招待者 (48 名)：政府関係機関 5 (FDA、STI、NSTDA、水産省、タイ放射光施設)、
大学 8 (マヒドール大、タマサート大等)、企業 6 社

(3) 技術動向調査

①次年度の JASIS における OSF テーマと基調講演者選定のための調査および選定を実施した。

②分析機器将来技術戦略小委員会において、文部科学省における第 6 期科学技術基本計画検討作業への反映を目指し、文部科学省「ナノテクノロジー・材料分野の研究開発戦略検討作業部会」に「ナノテク・材料分野において求められる分析機器技術課題」を JAIMA 提言として提出。

(4) 分析機器の手引き

分析機器の手引編集作業部会を月に一度のペースで開催し、当初計画した第一版の校正作業の最終段階まで作業を実施。また、現行分析機器の手引きを改訂し、JASIS 2018 にて配布した。

(5) 次世代人材育成支援

①高校生向け講習会 (JAIMA サマーサイエンススクール等) の実施

高校生向けの分析機器講習会 (サマーサイエンススクール) を企画し、会員企業 15 社の協力を得て以下のとおり実施した。なお、新企画として、一般向けオープンコーナーを開設したところ 119 名の参加があった。本事業は、JAIMA の社会貢献活動として大変有効で、本会を通じ、高校生を中心に若者層の分析機器や分析機器業界への関心が高まった。

また、H30 年度は、同じ日本科学未来館で翌日開催された経済協力開発機構／国立研究開発法人日本原子力開発機構 (OECD/NEA) 「将来の科学者のための女子会-(科学・工学分野の国際メンタリングワークショップ) に協力し、参加女子高生向けに分析機器講習会を実施した。

<開催内容>

開催日時：2018 年 8 月 7 日 (火) 12:30~17:00

開催場所：日本科学未来館

参加学生人数：49 名

協力企業数：15 社 (臨床検査薬協会の会員企業 2 社含む) 使用装置数：21 機器

②早稲田大学大学院創造理工学研究科素材機器分析評価講座実施

早稲田大学大学院創造理工学研究科「素材機器分析評価」講座の実施に協力した。

<開催内容>

講座名：素材機器分析評価

開設組織：早稲田大学大学院創造理工学研究科

開催期間：2018年4月から4ヶ月間開催（15回の講義）。

開催場所：早稲田大学 理工キャンパス

開催概要：素材機器分析に用いられている分析機器メーカー13社の技術者・研究者を講師として派遣し、機器分析技術の原理やその評価方法、また実際の分析時における技術上の注意点などについて講述。履修者は59名。

(6) 他団体・機関との連携

他団体主催の展示会や学会等において以下のJAIMA企画を実施し、JAIMAのプレゼンスを高め、JASISへの集客を図ると同時に、分析機器に関する技術動向やニーズを調査した。

<実施内容>

①『第8回CSJ化学フェスタ 産学官R&D紹介企画 ランチョンセミナー』実施

日時：2018年10月24日（水）12:00～13:00

場所：タワーホール船堀（3F 303 会議室）

参加人数：47名（参加者のうち、大学等研究教育機関関係者は35名、企業関係者12名）

講演：「分析機器・科学機器のインターネット展示会『JASIS WebExpo 2018』のご案内」

川村幸嗣（技術委員・光明理化学工業）

「一般社団法人日本分析機器工業会における分析技術を基軸としたキャリア教育（3）」

新村典康（技術委員・日本電子）

②P-MEC Japan2019におけるJAIMAセミナー実施

JAIMA 会員より4社講演。（2019.3.19開催）

③ファインケミカルジャパン 2019にて初のJAIMAセミナーを開催

JAIMA 関連6社講演。（2019.3.20開催）

3. 環境委員会

環境分野等における分析技術・機器に関する規格・標準化の推進及び規制への対応を行うことを目的として、(1)規格・標準化事業の推進、(2)会員製品の環境法規適合のための活動、(3)会員への環境規制関連の情報提供等を実施した。

(1) 規格・標準化事業の推進

①JIS K0115：2004 吸光光度分析通則改正

・JISK0115 吸光光度分析通則の改正を行うため、改正原案作成委員会を開催した。

（第1回 2018.11.14、第2回 2018.12.16、第3回 2019.2.5、第3回 2019.3.14）

②JISK0126 流れ分析通則改正

- ・昨年度に改訂作業を実施した JISK0126 流れ分析通則改訂版が 2019 年 1 月 21 日官報公示。

③他団体等において設置された標準化委員会への委員の派遣

- ・ JISK0102 工場排水試験方法の体系整備検討委員会
- ・ JISK0311 排ガス中のダイオキシン類の測定方法の改正原案作成委員会
- ・ JISK0312 工業用水・工場排水中のダイオキシン類の測定方法の改正原案作成委員会
- ・ IECTC111WG3_国内対応委員会
- ・ ISOTC61SC5,14_国内対応委員会
- ・ ISOTC146SC2_国内対応委員会
- ・ ISOTC147_国内対応委員会

(2) 会員製品の環境法規適合のための情報発信

会員製品の環境法規適合のための情報発信活動として、JBCE 環境委員会に参加し、RoHS 指令カテゴリ-8,9 製品固有の RoHS 適用除外項目と新規規制物質追加の課題を訴え、会員製品の RoHS 適合のための取組推進を要請した。

<適用除外への対応>

- ・ 欧州 RoHS 指令の附属書IVの除外規定延長について適用除外タスクフォースにより申請のとりまとめを実施。

<改正内容等の確認、対応>

- ・ 韓国「電子製品等資源循環法」および「廃棄物管理法」の改正立法予告案公告および意見募集
- ・ RoHS 指令物質追加検討 Pack15 第 2 次意見募集
- ・ カナダ有害化学物質規制改訂公開意見募集

(3) 会員への環境規制関連の情報提供

①JAIMA 環境規制関連セミナー

- A.第 1 回「フタル酸エステル類規制への対応 ~中小企業支援・工業試験所の立場から~」
講師 萩原 利哉先生 (地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 国際化推進室 輸出製品技術支援センター) (2018.9.27 開催)
- B.第 2 回「IEC TC111 における国際標準化動向 及び 国際標準化の進め方」
講師 森紘一先生 (元 IECTC111 議長) (2019.12.4 開催)
- C.医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会主催 「環境セミナー2019」
「医療・計測・分析・制御機器への環境関連規制最新動向」(2019.2.15 開催)

②グローバル環境調査

欧州化学物質規制等の情報収集を実施するため、JBCE/GAMBICA/RINA/SPECTARIS /EUROM II 等を訪問し、情報交換会議を実施。

(4) JASIS 2018 への支援

JASIS 2018 において開催された OSF「フタレート規制」の企画、運営に参画した。

4. 労務委員会

労働法制の改正、働き方改革など工業会会員が共通に直面する人事・労務の課題に対応することを目的として、(1)主要労働条件に関する調査・研究、(2)会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催、(3)トピックス的情報交換、(4)異業種交流会を実施した。

(1) 主要労働条件に関する調査・研究

人事・賃金制度、労働時間制度、退職金・年金制度等主要労働条件に関する調査・情報交換・事例研究を実施した。

第1回：春闘各社結果についての情報交換（2018.5.18 開催）

第2回：勤務管理および休職制度についての情報交換（2018.7.6 開催）

第3回：「一定の専門性・技能を有する外国人材を受け入れる新たな在留資格の創設」に関する各社状況の共有（2018.9.5 開催）

第4回：「一定の専門性・技能を有する外国人材を受け入れる新たな在留資格の創設」の最新情報の共有（2018.11.30 開催）

(2) 会員企業の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）開催

JAIMA 会員の労務・人事担当者を対象に講演会（セミナー）を実施、参加者は 20 名であった。（2018.11.30 日開催）

・「企業における障害者雇用への取組と支援制度」

講師：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 湯浅 善樹氏 荒井 一雄氏

・「仕事と介護の両立支援 ～人事担当者として行う支援～」

講師：みずほ情報総研株式会社 小曾根 由実氏

(3) トピックス的情報交換実施

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し、随時、メール等で労務委員会委員間の情報交換、意見交換を行なった。

①海外渡航時の予防接種について（2018年7月）

②障害者雇用の各社の状況について（2018年7月）

③旧姓使用に関する各社の状況について（2018年7月）

④帰省旅費について（2018年11月）

⑤新卒採用向け交通費の支給状況について（2019年1月）

(4) 異業種交流会開催

他業界における働き方改革の状況について、次の自治体、企業を訪問し情報交換を行った。

①訪問先：愛媛県 県民環境部県民生活局 男女参画・県民協働課

日時：2019年3月12日（火）10：30～11：30

訪問内容：愛媛県が推進している女性活躍に向けた取組について説明を受けた。

②訪問先：三浦工業株式会社 本社・北条工場

日時：2019年3月12日（火）13：30～16：00

訪問内容：愛媛県が定める「女性活躍推進優良企業」として表彰されている三浦工業（株）の本社と北条工場を訪問し、女性が働きやすい環境づくりを含め、女性活躍推進の様々な施策について説明を受け、意見交換を行った。また、ショールームや工場も見学した。

5. 知的財産委員会

分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的として、知的財産委員会を運営し、会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換を実施した。

(1) 知的財産委員会開催

第1回知財委員会 年間の活動計画を策定

第2回知財委員会 異業種交流として北海道大学訪問

第3回知財委員会 特許庁との交流会を実施

第4回知財委員会 講演会準備を実施

海外調査団派遣：10月30日から11月2日にかけて中国を訪問し、以下を実施。

①深センで開催される医療系の展示会 CMEF での製品調査

②JETRO 北京で模倣の実態等の意見交換を実施

③北京の法律事務所（CCPIT）で最新の中国法についての意見交換を実施

(2) 知的財産委員会小委員会開催

知的財産権に関連する実務を遂行する上で有用な知識・情報の共有化を図り、併せて会員企業の若手実務者のスキルアップを図るため、特許庁若手審査官もメンバーに加わってもらい、実務小委員会を全11回（月1回）実施。本年度は、IoT 関連発明の課題について研究を実施した。

第1回小委員会 年間活動計画策定

第2回小委員会 ビッグデータ利用上の留意点に関する調査結果検討

第3回小委員会 データ/学習済みモデル/AI 生成物の主要国での保護規定検討

第4回小委員会 第3回の検討事項を継続検討

第5回小委員会 知財実務の情報交換

第6回小委員会 データの取扱いに関する留意点検討

第7回小委員会 最終報告の方向性議論、知財実務の情報交換

第8回小委員会 ビッグデータ/AI の活用事例を調査

第9回小委員会 知財実務の情報交換

(3) 特許庁との交流会

特許庁の特許・意匠・商標の担当審査官を知的財産委員会に招き、意見交換会を実施した。

(4) 知的財産権に関連する有識者講演会開催

知的財産権に係る著名な実務者を講師として招き、会員企業に対する講演会を開催した。

開催日時 2019年1月24日（第4回知財委員会開催時）

演題：「ナブテスコの知財経営戦略におけるIPランドスケープの実践」

ー事業を成長させ、企業価値を高めるナブテスコ知的財産経営戦略において、
技術マーケティング（IPランドスケープ）をいかに活用し展開しているか？ー

講師：ナブテスコ株式会社 理事 技術本部知的財産部長

ナブテスコ R & D センター長 菊地 修 氏

6. 国際委員会

JAIMA・JASISのグローバル化推進を図ることを目的として、海外団体との連携強化、海外との情報の受発信充実、海外へのソリューション提供の強化、輸出管理・海外市場に関する情報収集と啓発活動を実施した。

(1) JAIMAのグローバル化

①海外友好協力団体との連携・海外向け情報発信による国際的なプレゼンス向上活動

- ・JAIMA-ALDA-Eurom II ジョイントミーティング開催(2018年4月ドイツ analytica 展、2019年3月 Pittcon 開催時)

ジョイントミーティングに参加し、日本市場動向のほか、JAIMA 統計、JASIS の状況と新プロジェクト（LS 研究会、JASIS 関西、WebExpo）を紹介した。

- ・アジア各国分析関連団体との協力によるフォーラム・セミナー開催：

国内：JASIS 2018: A.アジアテクニカルフォーラム（アジアの食の安全・安心）

B.中国フォーラム開催（市場動向、環境、食の安全、健康）

海外：インド analytica India Anacon Conference JAIMA セミナー(4月) (60名)

シンガポール Food Safety Analysis Conference JAIMA 講演 (11月) (300名)

インド CPHI-PMEC India JAIMA セミナー (12月) (100名)

タイ 技術委員会主催でセミナー開催 (11月)

- ・海外展示会主催団体とミーティング開催

メッセミュンヘン、Pittcon、インド PMEC、中国 CISILE ほか

- ・台湾 BPIPO（バイオメディカル政府系団体）が JASIS 2018 LSZ に新規出展

- ・タイ TISTR(Thailand Institute of Scientific and Technological Research, タイ科学技術研究所) と MOU を締結し協力関係を深めた。

②その他機関との連携・海外向け情報発信による国際的なプレゼンス向上活動

- ・米国 IBO 誌による日米欧3団体 Current Business Environment 調査に広報委員会と連携して協力し、IBO Oct31, 2018 号に JAIMA 取材記事が掲載された。

(2) JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化

①JASIS 2018・JASIS 2019 出展勧誘活動

- ・JASIS 2018 勧誘に向け、インドネシア、中国、ドイツ、インド、台湾の展示会に出展又は参加行った。また、9月以降は、JASIS 2019 に向けタイ、中国、台湾、シンガポール、インド、米国の展示会に出展又は参加した。
- ・アジア各国からの JASIS 2018 への集客増を目指し、中国、韓国、台湾、東南アジア(ベトナム、タイ)の分析機器関連友好協力団体を訪問し、参加勧誘活動行った。また、JASIS 2019 に向けタイ・ベトナム(2019年3月)の協力団体を訪問し、MOU 団体向け海外企業勧誘プログラムを用いて出展、来場勧誘、PR 活動を行った。
- ・中国分析機器ポータルサイト儀器信息网と連携し、中国向けに JASIS 出展企業 7 社のインタビュー動画を配信。
- ・米国、カナダ、フランス、ニュージーランド、チェコの在日大使館との連携活動を実施し、その結果、ニュージーランド(JASIS 幕張)、チェコ(JASIS 関西)が新規に JASIS 出展。
- ・JASIS 2018 については、海外出展団体・企業:42 社・機関 44 小間、海外来場者 527 名(2017:41 社、44 小間、702 名)。

②JASIS WebExpo PR 活動

平成 30 年度に実施した海外展示会への JASIS 勧誘ブース出展時、海外団体への訪問時、JAIMA-ALDA-Eurom II Meeting、JASIS 海外出展社説明会などの機会に海外企業の日本市場開拓のツールとして PR 行った。

(3) 輸出管理に関する情報収集と会員啓発活動(輸出管理小委員会)

①輸出管理小委員会開催(4回開催)

水銀法関連、法改正関連、経済産業省要望事項(標準試料の非該当化)進捗などを討議し、情報交換・情報収集および会員への啓発活動を行った。

(小委員会 4 回開催:4月20日、7月20日、10月19日、2019年1月18日)

②安全保障貿易管理説明会開催

経済産業省と協力、日本電気計測器工業会と共催で安全保障貿易管理説明会開催した。

- ・東京開催 参加者 123 名((2019.1.31 開催) 京都開催 参加者 98 名(2019.3.1 開催)

③米国の対中国貿易政策の動向に関する会員向けセミナーを開催した。(2019.3.20 開催)

(4) 海外市場における分析機器市場調査

①JAIMA-ALDA-Eurom II ジョイントミーティング(18年4月ドイツ analytica 展、2019年3月 Pittcon)において各国の分析機器市場動向データ収集を行った。

②JASIS 2018 国際コンファレンスにて、中国の分析機器及び試験市場動向、インド食品分析規制の概況などの講演を実施し、会員等国際コンファレンス参加者に情報提供を行った。

③海外展示会にて収集した市況・市場データ等を国際委員会に報告し共有した。

7. 医療機器委員会

(1) 医療機器関連他団体との連携

①一般社団法人日本医療機器産業連合会（医機連）各種委員会および関連 WG 活動に参画

医機連の各種委員会および関連 WG 活動に参画し、会員会社に情報・資料を配布した（5回）。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告した。

②一般社団法人日本臨床検査薬協会（臨薬協）との IVD-MD 会議開催等の活動を実施

臨薬協と IVD-MD 会議を開催（5回）し、情報の共有と共通課題について議論を行った。また IVD 地位向上 WG を開催（4回）し、施策を審議した。臨薬協とメディア勉強会（1/30）を共催したほか、技術委員会が 8 月 7 日に実施した JAIMA サマーサイエンススクールに臨薬協の参加を計画した。また、子供霞ヶ関見学デー（厚生労働省開催）に協力し、2 日間で 466 名の参加者があった。

③3 団体動物関連委員会合同会議開催等の活動を実施

臨薬協および一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）との 3 団体動物関連委員会合同会議を開催（6回）し連携強化を図った。動物用体外診断用医薬品の届出制度等における課題について農林水産省との意見交換を継続して実施し、検討課題をまとめ、3 団体合同委員会 WG の連名で要望書を提出した（9/8）。臨薬協および JIRA との 3 団体共催による平成 30 年度動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器法講習会を開催（11/8）した。

(2) 臨床検査の標準化

①装置コード表作成

公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理 調査事業を支援する目的で装置コード表を改訂し、工業会 HP に掲載した。会員企業の作業負担軽減のため、装置コード表を会員企業が直接メンテナンス（装置追加・削除・修正）出来るシステムの開発を一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会（JACLaS）と共同で推進。

②国内標準化活動

体外診断機器の分野での国際整合（JIS 化）に貢献するため、海外規格に関する国際会議への参加等による最新の情報入手及び会員への情報提供を行った。

- ・国際会議（2018.4.16-20）に委員 1 名を派遣し、IEC61010-1 4th の審議に参加
- ・安全・EMC 規格小委員会を開催（4回）

(3) 国際活動

①国際小委員会を開催し、国際政策・アジア WG 等の情報を提供した（3回）。

②内閣府主催の官民連携会議における「感染症分野における途上国展開に向けた研究会」の報告内容を受け、分析工・臨薬協で合同委員会を設置し、政府への支援提言策の検討や海外情報の共有化を実施した。

③ISO/TC212(臨床検査と体外診断検査システム)に参加し、国内意見の国際規格への反映を図った。
ISO/TC212 WG3 では、臨床性能「研究」ガイドライン案の DIS 投票が行われ、反対票があったため、今年の冬に FDIS 投票が行われる予定となっている。

③GDA の枠組みで AdvaMedDx(米国)から提供された WHO 関連の情報を会員企業に展開した。
EDMA/AdvaMedDx/CBDL/MEDEC/IVD Australia が参加する GDA 会議 (2018.9,24-25 米国フィラデルフィア開催)に参加し、JAIMA の活動を報告した。

(4) ライフサイエンス・イノベーションへの取組み

①ライフサイエンスイノベーションセミナー「生命の仕組みを解き明かす次世代バイオ技術」を JASIS プロジェクト小委員会と共催で開催。(H31.3.1 開催)

(5) 公正取引の徹底

①JACLaS EXPO 2018 にてブースを設営し、公正取引の周知活動を行った。

②「公正競争規約勉強会」を、東京会場 (1/15)、京都会場 (2/22) で開催。

③医療機器業公正競争規約インストラクター養成研修を開催 (7/7、12/7) し、新たに 49 名のインストラクターが誕生した。

8. 広報委員会

JAIMA の認知度/知名度向上および会員サービス向上を図ることを目的として、JAIMA の各委員会や事務局と連携し、(1)JAIMA Web の運営、(2)メールマガジン「JAIMA 通信」の発行、(3)「JAIMA Season」の定期発行、(4)メディアパートナーシップの活用等を通じて、JAIMA や JASIS 情報の外部発信を実施した。

(1) JAIMA Web の運営 (和/英)

①JASIS 関連のお知らせ等のニュース記事の読みやすさの改善、JAIMA Season で連載を開始した「機器分析が支える豊かな暮らしと産業のフロンティア」の Web 掲載のため、Web のメニュー構造を刷新した。

- ・ JAIMA Web のフロントページの「ニュース&イベント」の掲載ニュース記事に掲載日付を追加するとともに、「ニュース一覧」ページ等に年別アーカイブを設ける等読みやすく改良。

- ・ JAIMA の組織、沿革のページを最新情報に改訂

- ・「機器分析が支える豊かな暮らしと産業のフロンティア」ページの追加

②JAIMA Web 上のフロントページの「ニュース&イベント」や会員ページの「What'New」に、ニュース・イベント情報などのトピックスを毎月 10 数件ペースで継続掲載した。

③WEB 分析総覧のリニューアルに向け、脆弱性検査を実施し、問題点を解消した。

(2) 会員向けメールマガジン発行

①会員向けメールマガジンを月刊で発行。継続的に発信し、2018 年度末で通巻 45 号となる。

②2018年10月号より、新設「こぼれ話」コーナーを不定期で掲載。委員会メンバーのイベント訪問記などを、軽いタッチで紹介。さらに親しみやすいメルマガを目指す。また、読者層の拡大のため、残された課題を継続協議中。

(3) 「JAIMA Season」の定期発行

①今期も JAIMA Season の定期刊行を実施し、工業会会員等に対し、工業会活動を適切な情報発信により実施し、会員サービス等に貢献した。(発行回数：4回／年度 春号 2018.4.20 発行、夏号 2018.7.20 発行、秋号 2018.10.20 発行、新年号 2019.1.20 発行)

②これまで連載してきた「分析の原理」に代わり、分析ソリューションの解説に重点を置いた新企画として「機器分析が支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」の連載を開始した。

第1回(2018年7月)：RoHS規制物質の分析

第2回(2018年10月)：食品のおいしさ評価

第3回(2019年1月発行予定)：次世代電池

(4) メディアパートナーシップの活用等

海外メディア Instrument.com.cn(中国)、Separation Science(シンガポール)、LABePEDIA(インド)との JASIS バータ広告を Web・メルマガを中心に実施。JASIS 及び JAIMA の対外的、国際的認知度向上に寄与した。

(5) プレス関係対応

①JASIS(幕張)記者会見の実施、プレスリリース発信

JASIS 委員会、JSIA/JAIMA 事務局と連携し、JASIS(幕張)にて記者会見を実施した。記者会見参加メディア数 21社 26名(昨年 21社 30名)。また、LSZ、OSF などの特別企画や、JASIS WebExpo、JASIS 関西などの JASIS トピックスの発信タイミングを調整しながら、年間通じてプレスリリースの発信を行った。(プレスリリース実績：プレスリリース件数 14件(前年度 17件)、メディア掲載数 415件(前年度 450件))

②米国 Instrument Business Outlook 誌(IBO)取材協力

米国 Instrument Business Outlook 誌(IBO)の米・欧・日 各工業会へのマーケットサーベイに協力し、JAIMA 取材記事が IBO Oct31, 2018 号に掲載された。広報委員会では、IBO のリサーチ結果を JAIMA Web(日・英)に掲載した。

(6) 『工業会案内』(和/英)の改訂発行

2018年度8月に『工業会案内』(和文/英文)を改訂・発行した。

9. 展示会委員会

(1) JASIS 2018 (第7回) 開催

①JASIS 委員会 (JSIA との合同展示委員会) の下に 5 つの小委員会 (展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・OSF、来場促進) を設置し、JASIS 2018 の企画、準備、出展募集、来場者確保等を実施し、平成 30 年 9 月 5 日～7 日の 3 日間、幕張メッセ国際展示場 (4～8 ホール) にて JASIS 2018 を開催した。(「分析展/科学機器展」から「JASIS」へと名称変更後、7 回目の開催)

<開催実績> () 内前年度実績

・来場者数：23,697 名、延べ 28,203 名 (24,856 名 延べ 29,392 名)

(海外来場者：527 名 (昨年 702 名))

・出展小間数：1,462 小間 (1,478 小間)

・出展社数：494 社 (506 社)

(海外からの出展社：16 か国、42 社・機関、44 小間)

②重点施策として、下記 A.～F.を実行した。

A. ライフサイエンスイノベーションゾーン (LSZ) 開催

ライフサイエンス分野での分析機器・科学機器の新市場創出を目指す活動の発信の場として開催した。最先端のバイオ医薬・ヘルスケアと分析機器の役割をテーマに最新のライフサイエンス市場動向や分析機器に求められる新技術等に関する基調講演と展示を実施。

<開催実績> () 内前年度実績

・ゾーン規模：102 小間/75 社 (87 小間/66 社) (過去最大の出展)

・来場者：延べ 9,700 名超 (10,157 名)

B. オープンソリューションフォーラム (OSF) 開催

市場を意識したテーマ性の高い基調講演 6 テーマと出展社発表 18 テーマを組合せたテーマ別新技術説明会を実施した。(フタレート規制、香りとにおい、次世代電池の 3 テーマ)

<開催実績> () 内前年度実績

・来場者数延べ 2,275 名 (1,619 名) (昨年度の 4 割増で大盛況)

C. 新技術説明会・コンファレンス開催 (技術委員会、国際委員会他との連携事業)

JASIS 2018 開催期間中、新技術説明会・JASIS コンファレンスを実施した。今回、新技術説明会はテーマ数が 352 テーマ (昨年：347 テーマ) と前年度に比べ増加。総聴講者数は延べ 16,000 名を超える規模となった。また、JASIS コンファレンスは、37 団体 52 セッション (昨年：30 団体、52 セッション)、総聴講者数 4,219 名 (昨年：4,507 名) となった。

D.JASIS WebExpo の本格スタート

今年度から出展社募集（有償）を開始し、JASIS 会期前後で Web を利用して出展社情報や JASIS 開催中の講演・セミナーの情報配信を実施した。来場者への提供情報コンテンツの拡充に加え、参加した出展者には来場者情報を提供するサービスを行い、来場者と出展社へのサービスの向上を図った。

<開催実績>

閲覧者：4,200 人以上（JASIS 来場実績の無い Web 閲覧のみの者：1,200 人以上）

出展社資料閲覧延べ：7,600 回以上、平均滞在時間：70 分

ユーザー来場者比率：69%

E.JASIS のグローバル化推進

国際委員会、技術委員会と協力し、海外への「JASIS」浸透を図るため海外展示会における JASIS ブース等の設置や PR 活動を実施した。

また、展示会委員会としても、Pittcon 2019 の JAIMA ミッションに参加し、欧州、米国関連団体とのミーティング実施や、Pittcon Committ から提供された JAIMA ブースにおいて JASIS の来場・出展誘致活動を国際委員会や技術委員会委員と実施した。

F.「JASIS 関西 2019」（第 1 回）の開催

JASIS 委員会（JSIA との合同展示委員会）の下に JASIS 関西準備チームを設置し、JASIS 関西 2019 の企画、準備、出展募集、来場者確保等を実施し、平成 31 年 2 月 5 日～7 日の 3 日間、グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）にて JASIS 関西 2019 を開催した。なお、展示・新技術説明会（68 テーマ）のほか、特別企画として、OSF 2 テーマ（香りとおい、次世代電池）、JAIMA セミナー5 テーマ、日本薬局方セミナー4 講演、日科協セミナー1 テーマを開催した。

<開催実績>

・来場者数：4,038 名 延べ来場者数：4,486 名

・出展小間数：176 小間 ・出展社数：93 社

・新技術説明会聴講者数：3,176 名

・特別企画聴講者：OSF：648 名、日本薬局方セミナー：202 名、

JAIMA セミナー：588 名、日科協セミナー：41 名

(2) JASIS 2019開催準備

平成30年11月、JASIS委員会（JSIAとの合同展示委員会）の下に6つの小委員会（展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・OSF、来場促進、コンファレンス）を設置し、JASIS 2018の開催結果を踏まえ、JASIS 2019の運営体制、開催内容、スケジュールを決定し、出展社募集説明会開催等準備活動を実施した。

(3) JASIS の将来像の検討（継続）

展示会企画戦略小委員会において、JASIS の将来像についてディスカッションを行った。

10. 統計委員会

(1) 生産高、輸出高、輸入高統計データ

正会員および賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高統計データを調査し、統計委員会で四半期ごとの調査結果を分析し各社にフィードバックするとともに、結果を理事会に報告し、会報に掲載した。(統計委員会開催日：2018.5.30、2018.8.29、2018.11.15、2019.2.22)

(2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

受注統計小委員会として、JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を推進している。

1) JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を維持管理した。35社 (JAIMA 15社、ALDA 9社、Eurom II 11社) の参加を得ている。

2) 以下のとおり日米欧の企業の合同統計を四半期毎に集計した。

①主な集計項目：ア) 世界6地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額

イ) 世界6地域における対象機種を受注金額および台数

②地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の6地域

③対象11機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS

④参加企業：35社 (JAIMA 15社、ALDA 9社、Eurom II 11社)

(3) 新統計システムの見直し

新統計システムの運用状況、不具合を把握・検討し、必要なシステム面・運用面の改良を行った。また、新たに輸出高の地域別データの出力を検討し、2018年度内に改修を実施した。

V. その他の事業活動概要

1. 生産高、輸出高、輸入高動向調査

会員を対象に統計調査を実施し、四半期毎と年度毎の集計結果の発表を行った。

2. 中小企業経営強化税制・固定資産税特例に関する証明書発行事業

政府の中小企業経営強化税制・固定資産税特例制度に協力し、分析機器に関する生産性向上仕様等証明書を審査、発行した。

3. その他行政諸施策および他団体事業への協力

(1) 一般財団法人安全保障貿易情報センター (CISTEC) の出捐団体となっており、安全保障輸出管理委員会に専務理事が参加した。

(2) 日本工業標準調査会 (JISC) の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣している。

(3) 別紙5のとおり、他団体の JIS 等関係調査事業、ISO/IEC 関係委員会、理事会等に協力した。

(4) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、ホームページ掲載、会報掲載、メール送信により会員に周知した。

4. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施した。

5. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

(1) 国際法定計量機関（OIML）関係委員会への協力

OIML国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加した。

(2) 一般社団法人日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加した。

6. 分析機器に関する製品安全化事業

PL 団体保険制度の事業を推進した。

(1) 海外を対象とする「海外団体 P L 保険制度」の参加会員 8 社

(2) 国内を対象とする「国内団体 P L 保険制度」の参加会員 2 社

(3) CGL 保険（企業総合賠償責任保険）の参加会員 16 社

7. 協賛名義等の使用承認

平成 30 年度は 28 件の展示会、セミナー等に対し、後援・協賛名義等の使用を承認した。

8. 報告書等発行

(1) 業務関係報告書

①JASIS 2018 結果報告書（和文）・②JASIS 2018 FINAL REPORT（英文）

(2) 分析機器の手引き

(3) 「医療機器業公正競争規約」携帯版小冊子（ポケット版）

(4) 超臨界流体抽出装置／クロマトグラフィシステムに関するガイドライン JAIMAG0004-01 および 02（装置カラム製造者向け、装置使用者向け）

9. 高圧ガス保安法施行令の規制緩和対応

平成 28 年度に実施された高圧ガス保安法施行令の規制緩和への業界対応として、SFE/SFC に関する高圧ガス保安協会との共同規格策定作業を行った。並行して、製造事業者向けおよび装置使用者向けのガイドラインを作成した。また、高圧ガス保安協会に講師を依頼し、本規格に関する会員向け説明会を開催して周知を図った。（2018.12.6 開催）

10. 特別講演会の開催

最近における米中関係の悪化を懸念する会員向けに、以下の特別講演会を開催した。

開催日時：平成 31 年 3 月 20 日（水）14:00~17:00

演題Ⅰ：米国の対中通商貿易政策の動向（仮題）

講師：日本貿易振興機構海外調査部米州課長 秋山士郎 氏

演題Ⅱ：最近における米国輸出管理政策の動向（仮題）

講師：一般財団法人 安全保障貿易情報センター理事 調査研究部長 中野 雅之 氏

11. 委員会開催状況

委員会開催状況を別紙 3、各委員会「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙 4 に示す。

別紙1 会員の異動

1. 入会 (5社)

(1) 正会員 (2社)

平成30年 4月 1日 株式会社堀場アドバンスドテクノ

平成30年 4月 1日 セキアオイテクノ株式会社

(2) 賛助会員 (3社)

平成30年 4月 1日 ノバ・バイオメディカル株式会社

平成30年12月 1日 LifeScan Japan 株式会社

平成31年 1月 1日 アボットジャパン株式会社

2. 退会 (9社)

(1) 正会員 (4社)

平成30年 4月30日 株式会社ラウンドサイエンス
(株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ合併)

平成30年 6月30日 有限会社ジーネット

平成30年10月31日 富士フイルム和光純薬株式会社

平成31年 3月31日 株式会社マルコム

(2) 賛助会員 (2社)

平成30年 9月30日 株式会社三和化学研究所

平成31年 3月31日 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

平成31年 3月31日 日本バリデーション・テクノロジーズ株式会社

平成31年 3月31日 日本ルフト株式会社

平成31年 3月31日 伯東株式会社

3. 会社名変更 (3社)

(1) 正会員 (2社)

平成30年 4月 1日 新) 富士フイルム和光純薬株式会社
旧) 和光純薬株式会社

平成30年 4月 1日 新) PHC 株式会社
旧) パナソニックヘルスケア株式会社

(2) 賛助会員 (1社)

平成30年 5月 1日 新) カールツァイス株式会社
旧) カールツァイスマイクロコピー株式会社

別紙 2 一般社団法人日本分析機器工業会 役員等名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

会長	栗原権右衛門	日本電子株式会社	代表取締役社長
副会長	堀場 厚	株式会社堀場製作所	代表取締役会長兼グループ CEO
副会長	中本 晃	株式会社島津製作所	代表取締役会長
副会長	池田 俊幸	株式会社日立ハイテクノロジー	代表執行役 執行役専務 CTO
専務理事	松浦 義和	一般社団法人日本分析機器工業会	
理事	赤沢 真一	東亜ダイケイ株式会社	常務取締役
理事	岸本 京子	京都電子工業株式会社	代表取締役社長
理事	合田 豊治	アジレント・テクノロジー株式会社	代表取締役社長
理事	志村 晶	株式会社カク	代表取締役社長
理事	中村 敏樹	日本分光株式会社	代表取締役社長
理事	和田 直也	ベックマン・コールター株式会社	品質薬事統括部門長
監事	加藤 英夫	特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会	事務局長
監事	小林 久悦	理研計器株式会社	代表取締役社長
監事	長見 善博	ジューエルアイエンス株式会社	代表取締役社長
相談役	服部 重彦	株式会社島津製作所	相談役

別紙3 委員会開催状況

1.企画戦略会議	8回
展示会企画戦略小委員会	8回
ライフサイエンス市場研究会	12回
60周年記念事業準備委員会	1回
2.技術委員会	12回
企画運営小委員会	12回
3.環境委員会	12回
(他団体合同委員会：カテゴリ8・9関連工業会連絡会)	4回
4.労務委員会	4回
5.知的財産委員会	6回
実務・調査小委員会	11回
6.国際委員会	9回
輸出管理小委員会	4回
7.医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	5回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	6回
安全・EMC規格小委員会	6回
IVD-MD会議((一社)日本臨床検査薬協会との会合)	5回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	5回
医療機器国際小委員会	5回
動物医療機器小委員会	6回
8.広報委員会	12回
会報編纂小委員会/ホームページ小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回

9.展示会委員会 (JASIS 委員会)	1 2回
展示小委員会	1 2回
展示広報小委員会	1 2回
新技術説明会・OSF 小委員会	1 1回
プロジェクト小委員会	1 2回
(来場促進小委員会)	1 1回
コンファレンス小委員会	3回
JASIS 関西コアメンバー会議	1 1回
1 0. 統計委員会	4回
1 1. 標準化関係委員会	
JIS K0123 流れ分析通則原案作成委員会	8回
JIS K0115 吸光高度分析通則原案作成委員会	4回
JIS C61326-2-6 EMC 要求事項原案作成分科会	6回

以上

別紙 4

平成30年度 常設委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏名 (所属)
<ul style="list-style-type: none"> ・企画戦略会議 ・展示会企画戦略小委員会 ・ライフサイエンス市場研究会 ・60周年記念事業準備委員会 	正	森安里志 (島津製作所)
	副	大井 泉 (日本電子)
	〃	山下泰生 (堀場製作所)
	主査	大井 泉
	主査	神田浩幸 (リガク)
	※	森安里志 (※ファシリテーター)
	※	野村 聡 (堀場製作所) (※ファシリテーター)
	正	山下泰生
	副	森安里志
	〃	大井 泉
〃	中澤英子 (日立ハイテクノロジーズ)	
<ul style="list-style-type: none"> ・技術委員会 ・企画運営小委員会 ・JASIS コンファレンス小委員会 ・グローバル交流小委員会 ・技術普及調査小委員会 ・ドキュメント整備小委員会 ・分析機器将来技術戦略小委員会 	正	杉沢寿志 (日本電子)
	副	西埜 誠 (島津製作所)
	〃	八谷宏光 (東亜ディーケーケー)
	主査	杉沢寿志
	〃	西埜 誠
	〃	濱上郁子 (堀場製作所)
	〃	川村幸嗣 (光明理化学工業)
	〃	八谷宏光
〃	杉沢寿志	
<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会 ・規格標準化小委員会 ・環境規制小委員会 ・国際規制小委員会 	正	河合英治 (日本電子) ⇒ 中川勝博 (島津製作所)
	副	中川勝博 ⇒ 中井章仁 (堀場製作所)、後藤知行 (浜松ホトニクス)、赤沼英雄 (ビーエルテック)
	主査	中川勝博
	〃	中井章仁
	〃	中井章仁
<ul style="list-style-type: none"> ・労務委員会 	正	田崎克也 (アジレント・テクノロジー)
	副	坂口 亨 (京都電子工業)
	〃	大澤 暁 (リガク)

<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産委員会 ・実務・調査小委員会 	正 副 〃 主査	井上二三夫（シスメックス） 中野博司（島津製作所） 坂谷忠夫（リガク） 甲斐章嗣（日立ハイテクノロジーズ）
<ul style="list-style-type: none"> ・国際委員会 ・輸出管理小委員会 	正 副 〃 主査	川本健志（島津製作所） 坂西祥一（堀場製作所） 遠藤政彦（アジレントテクノロジー） 原 聡（島津製作所）
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器委員会 ・薬事法小委員会 ・標準・規格小委員会 ・安全・EMC小委員会 ・医療機器業公正取引協議会分析工支部 ・医療機器国際小委員会 ・動物医療機器小委員会 	正 副 〃 主査 〃 〃 正 主査 〃	鈴木信雄（日立ハイテクノロジーズ） 川中士郎（日本電子） 鈴木一弘（島津製作所） 西村裕之（サクラファインテックジャパン） 中山秀喜（シスメックス） 田中一啓（日立ハイテクノロジーズ） 川中士郎 関口幸児（PHS） 船橋真人（富士フィルム）
<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会 ・会誌編纂小委員会 ・ホームページ小委員会 ・プレスリリース小委員会 	正 副 〃 〃 主査 〃 〃	真鍋伸一（島津製作所） 伊藤裕基（日立ハイテクノロジーズ） 内匠優理香（リガク） 菅野 剛（東亜ティーディーケー） 真鍋伸一 菅野 剛 内匠優理香
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会委員会 <p>(JASIS 委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示小委員会 ・展示広報小委員会 ・新技術説明会・OSF小委員会 ・プロジェクト小委員会 	正 副 〃 〃 〃 主査 〃 〃 〃	長谷川武義（堀場製作所） 野元政男（日本電子） 五十嵐真人（日立ハイテクノロジーズ） 金子静知（メルク） 杉田隆通（島津製作所） 野元政男⇒杉田隆道 金子静知 長谷川武義 五十嵐真人

・コンファレンス小委員会	〃	長谷川武義
・JASIS 関西コアメンバー会議	〃	野元政男
・統計委員会	正	伊藤憲治(日立ハイテクサイエンス)
・受注統計小委員会	主査	川本健志 (島津製作所)

別紙5 参加している他団体事業

1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- (1) 計測・計量分野における用語および信頼性評価に関する国際標準化 (一財) 日本規格協会
- (2) 環境測定 J I S 総括委員会 (一社) 産業環境管理協会
- (3) 環境関係 JIS 委員会 (一社) 日本環境測定分析協会
- (4) 用語関係 JIS 委員会 (公社) 日本分析化学会

2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

- (1) ISO 関係委員会
 - ①TC45 (ゴムの化学試験方法) (一社)日本ゴム工業会
 - ②TC61 (プラスチック) 日本プラスチック工業連盟
 - ③TC147 (水質) (一社) 産業環境管理協会
 - ④TC146 (アスベスト測定) (一財) 建材試験センター
 - ⑤TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) (一社) 日本医療機器産業連合会
 - ⑥TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) 日本臨床検査標準協議会
 - ⑦TC229 (ナノテクノロジー) (一財)日本規格協会
- (2) I E C 関係委員会
 - ①TC65/SC65A (工業用プロセスの測定と制御への EMC 要求) (一社) 日本電気計測器工業会
 - ②TC111 (RoHS 関連試験法の規格化) (一社) 電子情報技術産業協会

3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)
- (5) (公社) 日本分析化学会 (理事会、委員会)
- (6) (特非) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (一財) 医療機器センター (評議員会)
- (9) (公社) 日本医師会 (精度管理委員会)
- (10) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (11) (一社) 日本臨床検査薬協会 (理事会、委員会)